

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの授業」

射水市立小杉小学校 4 学年児童
平成 23 年 1 月 25 日実施

【いのちの先生】

太田 友恵 先生

・世界移植者スポーツ神戸大会
競泳競技 金メダリスト

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話
 - (1) 自己紹介
 - (2) 生体肝移植を受けた体験
 - (3) 現在の私
- 3 質疑応答
- 4 子どもたちからの歌のプレゼント
「世界に一つだけの花」

児童の感想（4 学年児童）

太田さんの病気の話を、ご本人から聞かせていただいて、くわしく分かってよかったですと思います。

私も 2 歳のときに一度だけですが、手術を受けたことがあります。2 歳だったので、麻酔とかいろいろな注射をされて、とてもいやだったことをおぼえています。

太田さんは心の中で「私は絶対に負けないぞ」という気持ちで病気に立ちむかわれたのだと思います。だから、手術は成功し、手術の傷口がとても痛くても、病気に打ち克ったのだと思います。太田さんは強い人だと思いました。

児童の感想（4 学年児童）

太田さんは、肝臓を移植するとき、すごく不安だったと思います。でも、それを乗り越えられたからすごいと思いました。

弟さんも、自分から「肝臓をあげる」と言ったので、すごく勇気があると思いました。

太田さんの勇気に、お父さんの決断や家族の支えがあったからこそ、肝臓移植という問題を乗り越えることができたのだと思いました。

今日、太田さんが、「いやだなあと思っていることでも、それを乗り越えれば、次は幸せがくる」「いやで、今できなくても、後でまたチャレンジすればよい」と話されました。ぼくは、太田さんのその言葉が心に残りました。

これから、いやだなあとと思うようなことがあったら、太田さんが言われたことを思い出して、がんばりたいと思います。

児童の感想（4 学年児童）

太田さんのお話を聞いて、とっても高い壁を乗り越えたあとには、きっと幸せが待っていると思いました。私は、お世話になった人にすごい恩返しはできないかもしれないけど、心配してくれている人、支えてくれている人がいるから生きていられるということを心にとめて、毎日元気にくらそうと思いました。

そして、自分の得意なことを通して、将来いろいろな人が「かがやいている自分」を見つけられるように、お手伝いができたらいいなと思いました。